

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	戸田市立笹目小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	体験活動を核とした自ら学びに向かう児童の育成
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1 活動に至る経緯</p> <p>本校では、昨年度より「令和の日本型学校教育」の実現を目指し、校内研究テーマを「自ら学びに向かう児童の育成」と設定し、抜本的な授業改善に取り組んでいる。慶應義塾大学の鹿毛雅治研究室と共同研究に取り組み、「児童の学習意欲」に着目しながら、児童の実態把握と教師の授業力の向上を目指してきた。</p> <p>今年度は昨年度までの研究から、「児童が心を動かしているということ」に焦点を絞り、学校×農業、酪農等、体験活動を軸にした学びの本質に迫る活動を展開し、これまでの研究をさらに深化させていきたいと考えた。数値として目に見える学力の向上だけではなく、児童が本物から学ぶ楽しさと満足感を味わえるような環境を整え、教師の資質向上も図っていききたいと考えた。</p> <p>2 活動・研究の目的</p> <p>本研究の目的は、児童の直接的な体験活動を通して、自ら学びに向かう児童を育成することである。そのために学校ファームを中心とした環境整備を行い、生きて働く力を身に付けながら、課題解決を図っていく過程で主体的な学び手を育成するものである。</p> <p>3 活動内容</p> <p>(1) 学級総合</p> <p>① 第6学年2組 学級総合ゲストティーチャー (6月29日) NPOユニバーサルイベント協会 藤井 久美子 様</p> <p>(2) 校内研究</p> <p>①第2回公開授業研究会 (6月22日) 【指導者】 慶應義塾大学 教職課程 教授 鹿毛 雅治 様 【授業者】 第4学年 算数 金子 由衣 教諭 「角の大きさをもとめよう」</p> <p>②第3回公開授業研究会 (11月9日) 【指導者】 慶應義塾大学 教職課程 教授 鹿毛 雅治 様 【授業者】 第4学年 総合的な学習の時間 (学級総合) 加藤 剛 教諭 ～食品ロスをなくそう～ コンポストづくりから野菜の栽培へ</p> <p>③研究先進校視察 【視察先】 横浜市立大岡小学校 (12月9日) 研究推進委員5名、学校長 校内研修で情報共有</p> <p>(3) 体験活動</p> <p>・体験活動の中心となる学校ファームの環境整備、 備品購入 学校ファーム整備のための実演講習 (萩原様、田口様) (9月29日)</p> <p>①笹目ベリー園 今年度、外壁工事等によりベリー園に入る事が難しくなった。その結果初めて実がなったタイミングで果</p>	

実を鳥に食べられてしまい、ブルーベリーを収穫することができなかった。そこで学校応援団の方からアドバイスをもらい、ベリー園にネットを設置することを決めた。

## ②あじさいファームの野菜生産、販売活動

本校特別支援学級（あじさい学級）では、毎年野菜作りや販売に取り組んでいる。今年度は、これまでの経験を振り返り、活動を充実させるための工夫改善を行った。まず、野菜の販売相手は校内ではなく地域の方に設定し、作ったチラシを直接配りに回った。学校ファームの配置がわかりやすいように、自分たちで看板を作り、設置した。販売の場面では、iPadのアプリでレジの練習をしたり、話し方や袋詰めの仕方などを練習したりして、気持ちよく買っていただくための工夫を考えた。算数や国語での学習を活かしながら、地域の方と触れ合うことで、より深い活動につながられた。

## ④4年生による学級総合

学級総合で「食品ロスを減らしたい」という視点から、いろいろな方法を考える中で、「コンポスト」を使った野菜作りを行う活動を展開した。毎日コンポストの温度図ったり、JAさいたまの方から専門的なアドバイスをいただいたりしたことで、探究心をもち続けながら学習活動を続けることができた。

## ⑤給食委員会による野菜栽培活動

給食委員会の児童による、「自分たちで作った野菜を給食で使ってもらおう」という思いのもと、夏野菜の栽培がおこなわれた。実際に収穫したオクラやピーマンを栄養教諭に届けて、給食に入れてもらうことで、達成感を得ることができた。

## (3) 調査

慶応義塾大学院 佐藤 様 によるアンケート2

戸田市「授業がわかる調査」実施（6月、12月） 結果分析

## (4) 成果と課題

### 《成果》

- ・体験活動を通して、児童に寄り添い、五感を大切にしながら学びをコーディネートしていく教師の姿が見られるようになった。
- ・課題が見つかる、自分で調べたり試したりしながら考察を繰り返したことで、学び方の選択肢（インターネット、専門家や地域の方に聞く、違った条件で実験をしてみる等）を広げる児童の姿が見られた。
- ・土づくりから栽培、水やりや草刈り、収穫、宣伝、販売、と一連の流れを体験することで、食べ物の
- ・廃棄しなければならないものをほかの場面で生かす方法や、活用する方法を見つけることができ、食べ物の見方を広げることができた。
- ・地域の方に協力していただいたことで、学校内に他の果物があり、活用できることに気付くことができた。

### 令和6年

●興味や関心をもったことについて、自分なりに調べて考えを深めていますか。

とてもあてはまる	21.7%
だいたいあてはまる	37.0%
どちらともいえない	23.9%
あまりあてはまらない	10.9%
まったくあてはまらない	6.5%
あてはまる計	58.7%

●授業をきっかけに、学校や地域や社会をよくするために改善した方がよいことを考えたり、思いついたりすることはありますか。

とてもあてはまる	23.9%
だいたいあてはまる	23.9%
どちらともいえない	32.6%
あまりあてはまらない	15.2%
まったくあてはまらない	4.3%
あてはまる計	47.8%

●授業で、友達と意見を伝えあったり見合ったりするなかで、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。

よくできている	32.6%
だいたいできている	41.3%
どちらともいえない	17.4%
あまりできていない	6.5%
まったくできていない	2.2%
できている計	73.9%

### 令和6年

●興味や関心をもったことについて、自分なりに調べて考えを深めていますか。

とてもあてはまる	40.0%
だいたいあてはまる	27.5%
どちらともいえない	20.0%
あまりあてはまらない	7.5%
まったくあてはまらない	5.0%
あてはまる計	67.5%

●授業をきっかけに、学校や地域や社会をよくするために改善した方がよいことを考えたり、思いついたりすることはありますか。

とてもあてはまる	37.5%
だいたいあてはまる	25.0%
どちらともいえない	27.5%
あまりあてはまらない	10.0%
まったくあてはまらない	0.0%
あてはまる計	62.5%

●授業で、友達と意見を伝えあったり見合ったりするなかで、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。

よくできている	37.5%
だいたいできている	32.5%
どちらともいえない	25.0%
あまりできていない	2.5%
まったくできていない	2.5%
できている計	70.0%

- ・今回の研究を通して、体験活動を核にした学習活動の展開により、児童が主体的に課題解決に向かっていけると言えるだろう。

### 《課題》

- ・今年度初めて学級総合に取り組んだこともあり、体験活動をどの程度できるか見通しをもつことが困難であった。
- ・開校150周年記念で整備したベリー園の収穫ができなかったことは残念だったが、環境整備ができたので、次年度の収穫を目指し、さらに学習活動を展開していきたい。